

令和6年度

倉吉市教育行政の点検及び評価

倉 吉 市 教 育 委 員 会

令和7年5月

令和6年度 倉吉市の教育方針と重点施策

～行きたい学校・
帰りたい家庭・
住みたい地域～

教育基本法

・人格の完成と、社会の形成者としての国民の育成
学校教育法
社会教育法
図書館法
文化財保護法
博物館法

【教育理念】

豊かな心を持ち 自立して生きる 未来を拓く 人づくり

【教育大綱】

- ・創造性を培い、豊かな心と健やかな身体を養う。
- ・幅広い知識を身に付け、自立して生きる力を養う。
- ・社会の一員として、多様な人とともに、協働する力を養う。
- ・郷土を愛し、自然を大切に、伝統や文化を尊重する態度を養う。

第12次倉吉市総合計画

まちづくりの基本理念

【将来像】

元気なまち、くらしよし、未来へ！

基本目標3【教育・文化】

未来を拓く人を育て、芸術が輝く
まちづくり

倉吉市教育の創造

- ・第3期倉吉市教育振興基本計画の進捗管理（5年計画の4年目）・教職員の働き方改革の推進
- ・倉吉市教育委員会の活性化（教育に関する事務の点検・評価の推進、総合教育会議、学校訪問）
- ・「倉吉市立小学校適正配置推進計画」に基づく学校再編の推進（各地区協議会での課題の明確化とその対応）
- ・ICTの効果的な利活用によるDXの推進

1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり

① 開かれた学校づくりの推進

- ・地域学校委員会（コミュニティ・スクール）の活性化
- ・「学校評価アンケート」の実施と結果の分析及び公表
- ・倉吉市小中学校一斉公開 ・地域の次世代育成

② 家庭教育の充実

- ・PTA連合会との共催による教育講演会 ・地域未来塾
- ・「くらし子育て応援ブック」の活用
- ・「倉吉の子育て十か条」の啓発、推進

③ 地域力を育む社会教育の推進

- ・生涯にわたる学びの保障、機会の提供と環境整備（生涯学習講座、鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座の開催）
- ・将来の地域や社会を担う青少年の育成と活動の場づくり（放課後子ども教室、子ども会活動の支援、ハイスクールフォーラム、実行委員会によるはたちのつどいの実施）

④ コミュニティセンター（公民館）活動の推進

- ・人づくり、地域づくりにつながる機能強化（重点取組事業の実施）

⑤ 「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館

- ・開館50周年記念展の開催とテーマ性のある展示の創出
- ・美術賞（菅橋彦大賞）の開催準備
- ・教育普及活動の充実と調査研究活動の推進

⑥ 豊かな心を育む図書館

- ・読書活動の推進
- ・対象者のニーズに応じたサービスの提供
- ・山上憶良短歌募集事業の継続



2 創造性を培い、自立性・自主性を養う学校教育の推進

⑦ 幼児期の教育と小学校教育の連携

- ・幼児期の教育と小学校教育の連携
- ・接続カリキュラムの作成・活用

⑧ 学力向上の推進

- ・ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
- ・児童生徒の協働的な学びにおける効果的なICT活用
- ・情報教育の推進

⑨ 特別支援教育の充実

- ・倉吉市「個別の支援計画」と「個別の指導計画」の活用
- ・小学校1年生対象の読みに対する早期支援



3 安心・安全な教育環境の充実

⑩ 組織的・機能的な学校経営

- ・教職員の働き方改革の推進 ・共同学校事務室の設置

⑪ 安心して教育を受ける機会の推進

- ・児童生徒に向き合う時間を十分確保するとともに、きめ細やかな指導を展開するための人的配置 ・相談体制の充実
- ・不登校の未然防止と早期対応
- ・教育助成の充実（就学援助、特別支援教育就学奨励）
- ・奨学金制度 ・通学費支援（児童生徒遠距離通学、高校生通学）
- ・防犯対策の強化 ・学校防災体制の強化

⑫ 教育環境の整備充実

- ・学校施設の適正な維持管理

⑬ 学校の適正配置の推進

- ・今後の小中学校適正配置に向けての検討 ・集合学習の実施

⑭ 文化教養施設・体育施設の整備充実

- ・施設の長寿命化 ・老朽施設の修繕、改修



4 たくましく健やかな心と体づくりの推進

⑮ 人権尊重社会の担い手づくり

- ・「学校教育における人権教育の基本方針」に基づく人権教育の推進
- ・児童生徒意識アンケート ・いじめを許さない学校体制づくり
- ・相談体制の充実 ・情報モラル教育の推進（9年間カリキュラム）

⑯ たくましい体の育成

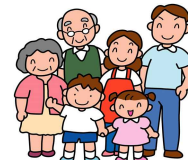
- ・学校体育の充実 ・中学校部活動の地域移行
- ・子どもの年齢に応じた体力づくりの推進

⑰ 学校給食の充実、食育の推進

- ・栄養教諭などによる学校での食に関する指導
- ・親子で学ぶ食の教室の実施

⑱ 体育・スポーツの振興

- ・スポーツ活動支援（スポ少補助、スポーツ大会、全国大会補助等）
- ・生涯スポーツの推進（スポーツ推進委員、ニュースポーツ交流会）



5 文化資源の保存活用と文化・芸術の振興

⑲ 倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成

- ・小中学生リーダー会議開催 ・地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進 ・くらし風土記の活用 ・はたちのつどい実行委員会

⑳ 文化財の保存、活用、伝承

- ・指定文化財等の防災・防犯等適切な保護管理
- ・指定文化財等の展示、文化財を核とする講座の開催
- ・文化財に触れる機会の創出と啓発 ・学校教育・社会教育との連携

㉑ 「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館【再掲】

- ・テーマ性のある展示創出 ・教育普及活動の充実と調査活動の推進

目 次

はじめに	1
1 評価・公表について	2
2 評価に当たって	3
3 主な重点施策の成果	3
4 重点施策の実績と評価	5
・開かれた学校づくりの推進	5
・家庭教育の充実	5
・地域力を育む社会教育の推進	5
・コミュニティセンター（公民館）活動の推進	6
・「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館	7
・豊かな心を育む図書館	7
・幼児期の教育と小学校教育の連携	8
・学力向上の推進	8
・特別支援教育の充実	9
・組織的・機能的な学校運営	9
・安心して教育を受ける機会の推進	10
・教育環境の整備充実	11
・学校の適正配置の推進	11
・文化教養施設・体育施設の整備充実	11
・人権尊重社会の担い手づくり	12
・たくましい体の育成	12
・学校給食の充実、食育の推進	13
・体育・スポーツの振興	13
・倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成	13
・文化財の保存、活用、伝承	14
5 教育委員会の主な動向	15
(1) 教育長、教育委員の在任状況	15
(2) 教育委員会の会議	15
(3) 教育委員会の開催状況	15
(4) 総合教育会議の開催状況	17
(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加	18

はじめに

平成19年6月に「教育改革関連3法」の改正が行われ、その中で、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実に関する規定の整備を図るため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表をしなければならないとされました。

倉吉市教育委員会では、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成23年に第11次倉吉市総合計画と連携した「倉吉市教育振興基本計画」を策定し、将来的な方向性や以後5年間（平成23年度～平成27年度）に重点的に取り組むべき施策を示し、平成28年には今後、一層進む少子高齢化社会に対応する教育行政をするために、「倉吉市教育振興基本計画（第2期）」（平成28年度～平成32年度）を策定して、各年度の「倉吉市の教育方針と重点施策」と「倉吉市教育行政の点検及び評価」により進行管理を行い、着実な計画の推進に努めてきました。その結果、倉吉市の教育理念「豊かな心を持ち、個性を発揮する人づくり」の実現を図るための様々な施策を展開することができました。

こうした中、本市の教育行政の更なる発展を見据えた次世代の教育が求められており、本市教育の目指すべき姿とその実現に向けたより実効性のある計画となるよう、教育委員会各課館所の連携を重視した「豊かな心を持ち 自立して生きる 未来を拓く 人づくり」を教育理念に掲げ、第12次倉吉市総合計画（令和3年3月策定）と連携した「倉吉市教育振興基本計画（第3期）」（令和3年度～令和7年度）を策定しました。

「倉吉市教育振興基本計画（第3期）」4年目の倉吉市教育委員会は、「社会全体が協働し学び続ける環境づくり」、「創造性を培い、自立性・自主性を養う学校教育の推進」、「安心・安全な教育環境の充実」、「たくましく健やかな心と体づくりの推進」、「文化資源の保存活用と文化・芸術の振興」を教育目標と基本施策とし、自ら設定した教育に関する方針や施策の実現を図るため、事業等の取り組み状況を日々点検・評価を行いながら改善を図り、より充実したものとなるよう努めてまいりました。

そして、市民から信頼される教育行政を目指し、教育委員会や事務局の役割、事業の進捗状況等について説明責任を果たすため、重点的に取り組んだ20項目の点検・評価を行い、その結果を公表し、効果的な教育行政の推進を図るとともに、教育委員会の会議の開催などの活動状況を記載し、ここに報告書としてまとめました。

《参照》 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）
を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これ
を議会に提出するとともに、公表しなければならない。

Ⅰ 評価・公表について

(1) 実施時期

点検及び評価は毎年度行うこととされており、当該年度における取り組み状況の点検・評価を年度内に行う。

(2) 評価の方法

教育委員会全般にわたり適正な教育行政の点検・評価や総合計画に掲げた目標水準の達成状況、施策の進捗状況との整合性を図りながら評価項目を策定し、評価にあたっては、審議会等に諮り、自己評価、外部評価を行う。

(3) 議会への報告

報告書を作成し議会に提出しなければならないこととされており、6月市議会に報告を行う。

(4) 一般への公表

課題を共有化しその解決を図るために広く意見を求め、より適正な評価に努めるために評価結果を市民に公表する。

(5) 各種教育関係機関の評価結果の活用

学校評価、社会教育団体、文化団体、スポーツ団体の評価結果の効果的な活用を行う。

(6) 外部の有識者等の知見の活用

○点検・評価・公表の流れ

教育委員会事務局の組織マネジメント(PDCA)及び業務評価システムの確立

P計画 → D実施 → C検証(中間評価) → A実行 → C評価(自己・最終)

4月 倉吉市の教育方針と重点施策を基にした各課の基本方針と実施計画を策定する



9月 重点施策の実施計画の進捗状況のチェックを中間評価とする。



3月上旬 重点施策の実施状況を各課で自己評価をする。



3月 各課の担当する審議会等に自己評価結果を提出し、外部評価を最終評価とする。



4月 教育委員会定例会で業務評価として協議し、6月市議会に提出・報告する。
市民へは、リーフレット、ウェブページ、市の広報誌等を活用して公表する。

2 評価に当たって

第12次倉吉市総合計画における、施策と教育委員会事務局で取り組んでいる施策との整合性を図りながら総合的な観点での評価に心がけた。評価に当たっては、令和6年度各事業の施策に示した目標に向かって、取り組むべき事業ごとに「目標」「実績」「成果」「課題」の観点に分けて行うこととした。また、評価項目については特に焦点化をはかり点検・評価の重点化を図ることとした。

○ 評価基準

成果	判 断 基 準
A	当初の目的・目標を上回る成果が上がった
B	当初の目的・目標を達成した
C	当初の目的・目標を下回る成果に止まった
D	当初の目的・目標を大きく下回った
評価せず	感染症対策等が原因で意図に反して目標を達成できないが、下回ってもいない

3 主な重点施策の成果

区 分 施策と担当課	施策数	成 果				総合
		A	B	C	D	
		目的・目標を上回る	目的・目標を達成	一部の進展に止まった	目的・目標を下回る	
1 開かれた学校づくりの推進						
学校教育課	2		2			B
2 家庭教育の充実						
学校教育課	1		1			B
3 地域力を育む社会教育の推進						
社会教育課	2	1	1			B
4 コミュニティセンター（公民館）活動の推進						
社会教育課	1		1			B
5 「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館						
博物館	3	1	2			B
6 豊かな心を育む図書館						
図書館	3		3			B
7 幼児期の教育と小学校教育の連携						
学校教育課	1		1			B
8 学力向上の推進						
学校教育課	3		3			B
9 特別支援教育の充実						
学校教育課	2		2			B
10 組織的・機能的な学校運営						
学校教育課	3	1	1	1		B

区分 施策と担当課	施策数	成 果				総合
		A	B	C	D	
		目的・目標を上回る	目的・目標を達成	一部の進展に止まった	目的・目標を下回る	
11 安心して教育を受ける機会の推進						
学校教育課	2	1	1			B
教育総務課	3		3			
12 教育環境の整備充実						
教育総務課	1		1			B
13 学校の適正配置の推進						
学校教育課	1			1		C
14 文化教養施設・体育施設の整備充実						
博物館	1		1			B
社会教育課	1	1				
図書館	1		1			
15 人権尊重社会の担い手づくり						
学校教育課	4	1	3			B
16 たくましい体の育成						
学校教育課	1		1			B
社会教育課	2		2			
17 学校給食の充実、食育の推進						
学校給食センター	2	2				A
18 体育・スポーツの振興						
社会教育課	2		2			B
19 倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成						
学校教育課	2	2				A
20 文化財の保存、活用、伝承						
博物館	2	1	1			B
学校教育課	1		1			
社会教育課						
計	47	11	34	2		

4 令和6年度 倉吉市教育委員会の重点施策の実績と評価

項目	重点施策 (基本施策から)	主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
倉吉市教育の創造	第3期倉吉市教育振興基本計画の進ちょく管理	1 基本計画に基づく重点施策実施計画の策定	教育総務課	・実施計画に基づく中間評価で進捗状況を確認した。各課で評価を行い、教育委員会内の関連する部署間の連携が図れた。 【課題】 ・中間評価での課題を整理し、的確な対応を図る。	B		
	倉吉市教育委員会の活性化	2 教育行政の点検及び評価の推進	教育総務課	・令和5年度の重点施策の点検・評価を実施し教育委員会に諮り、6月議会で報告した。	B		
		3 総合教育会議の充実 ・住民の意向や教育現場の実情の把握 ・教育委員活動の顕在化	教育総務課	・毎月の定例会と総合教育会議を年2回開催。 ・総合教育会議では、外部の講師を招聘し、関係各課も同席して市長と教育委員との充実した意見交換ができた。 ・情報発信では、メッセージやリレーコラムを計画どおり掲載。また、各会議録を公表した。 ・研修会等に積極的に参加し、自己研鑽を図った。 【課題】 ・総合教育会議では、意見交換だけの場に留めず、市長部局と教育委員会の関連する部署間の連携強化を図る。	B	B	・実施計画の策定と中間評価、重点施策の点検及び評価は、概ね計画どおり実施できた。 ・総合教育会議では、「幼保小接続」、「中学生の地元定着に向けた取組」、「教職員の勤務実態と部活動の現状」、「地域学校委員会の現状と今後の方向性」等について市長と教育委員との充実した意見交換ができた。 ・今後も課題の解決に向けた取組を展開していく。
	ICTの効果的な利活用によるDXの推進	4 事務のICT化	教育総務課	・今年度から電子申請による名義後援の申請・許可が可能となった。 【課題】 ・名義後援のとりどり電子申請サービスの活用を周知し、電子化を推進する。また、就学援助の電子申請を検討する。	B		
社会全体が協働し学び続ける環境づくり	① 開かれた学校づくりの推進	1 地域学校委員会の活性化	学校教育課	・各学校にて年間まとめ実施。 ・「教育を考える会」については小学校8校区が実施済。 ・地域コーディネーターの活動については各学校にて実施。	B	B	・地域学校委員会については各学校で実施された。 ・地域コーディネーターの活動も毎月実施。 【課題】 地域学校委員会のあり方を改善する必要あり。地域と学校が協力して子どもを育てる視点とするため、学校側、地域学校委員側の意識変革が必要。
		2 積極的な学校公開	学校教育課	・学校毎の学校公開を実施。アンケートについては各学校で実施し、ホームページ等にて公開。	B		・各小中学校がウェブページを活用し、学校の取組や児童生徒の様子、学校評価等の公表を行った。 ・各小中学校が各種調査やアンケート等の結果をもとに定期的に組織的な改善に取り組んだ。
	② 家庭教育の充実	1 地域未来塾	学校教育課	・未来塾については、はばたき教室にて全31回中3回中止となる。岡山大学との連携で大学生とも関わることができた。 ・上井教室は全26回中4回中止。 ・閉鎖式の実施。	B	B	・参加希望者が増加しているなかで、本来の目的にそった参加者となっているか。 実施回数 はばたき教室：29回 上井教室：22回 【課題】参加のない学校への手立て
	③ 地域力を育む社会教育の推進	1 生涯にわたる学びの保障、機会の提供と環境整備	社会教育課	・鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座は、「呼び起こそう、地域の底力」を主テーマに全5回実施し、延べ261人(R5:355人)の受講者があった。 ・生涯学習講座は、倉吉博物館開館50周年にあたり「もっと知りたい博物館の魅力～感動を生み、知る喜び～」と題し全5回の講座と現地研修を行った。受講者220人(R5:200人)新規受講者は30名、皆勤賞の方は18名あった。 【課題】 ・講座受講者のアンケート結果からは、倉吉の歴史文化等に関する学習内容へのニーズが高いが、市民のニーズに応えるだけでなく、身近にある生活課題や現代社会が抱える課題等についても学ぶ機会を市民へ提供できるよう学習内容の充実を図ることが必要である。	B	B	・生涯学習講座、鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座等を通して、学習機会を提供し、市民の生涯学習を支援することができた。地域に根ざし、地域にこだわった特色ある活動についてあらためて再認識することができた。 ・青少年団体や関係機関等と連携し、地域住民の参画も得ながら、青少年に対する体験活動等を通じた学習機会の提供や、はたちのつどいにおける二十歳の当事者主体の企画運営を通じて、若者同士のつながりや活躍の場を創出した。さらに今年度は対話型ミーティングを新たに実施し、地域の人とつながりながら、自分たちで考え楽しさを創り出し、地域で活躍することのできる人材の育成に取り組むことができた。

項目	重点施策 (基本施策から)		主 な 施 策		担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
Ⅰ 社会全体が協働し学び続ける環境づくり	③	地域力を育む 社会教育の推進	2	将来の地域や社会を担う青少年の育成と活動の場づくり	社会教育課	・放課後子ども教室を16教室実施。各地区で地域の特色を生かした体験活動を中心とした事業を展開した。(参加人数延べ3千人超) ・子どもリーダー研修会1回、育成者・指導者研修会2回開催した。(参加者延べ40人) ・はたちのつどい出席者355人(R5:296人)、出席率70.2%。前年より2.7ポイント増。実行委員16名は、主体性を持って積極的に意見を出し合い、知事のサプライズ登場など趣向を凝らした企画の実施につながった。中高生ボランティア25名は、受付や実行委員企画の業務に携わった。 ・中部ハイスchoolフォーラムは、従来の学校単位の発表に加え、新たに地域で活動している高校生の発表を行った。高校生自ら企画立案し、地域の一員として活動する取組を知ってもらう機会ができた。 ・新事業として、西郷地区と小鴨地区で、若者と地域の大人が対話を通じて学び合う対話型ミーティング事業を実施した。(参加者:西郷34人、小鴨42人) 【課題】 ・放課後子ども教室が地域学校委員会における熟議に基づいた地域学校協働活動の一環として実施されるよう、働きかけが必要である。 ・子ども会の活動の縮小と加入団体の減少が見受けられる。支援の強化が必要である。 ・はたちのつどい実行委員としての経験を活かし、地域での仲間づくりや活動など、今後の活躍につながるような仕掛けが必要である。 ・対話型ミーティング事業を他地区でも展開していくことが必要である。	A	前頁のとおり	前頁のとおり
	④	コミュニティセンター(公民館)活動の推進	1	人づくり、地域づくりにつながる機能強化	社会教育課 (地域づくり支援)	・全13地区コミュニティセンター指定管理団体に委託し実施した。 ・上北条、西郷、成徳、社、北谷、小鴨「地域づくり講座」、上井「健康教室」、上瀬「地域福祉講座」、明倫「成人講座」、灘手「デジタル講座」、高城「家庭教育支援学級」、上小鴨「タウンカレッジ」、関金「地域振興」 【課題】 ・各地区で計画に基づき実施された事業について、目標を達成できているかなど適切に事業評価を行い、次年度に活かすことや指標を用いて評価するなど評価方法について助言し、適切な評価が行えるようにすることが必要である。	B	B	・各地区において、それぞれの地域課題に応じたテーマ・プログラムに沿って、地域住民を巻き込みながら課題解決につながる学習活動を行うことができた。

令和6年度 倉吉市教育委員会の重点施策の実績と評価

項目	重点施策 (基本施策から)	主 な 施 策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
Ⅰ 社会 全体が 協働し 学び 続ける 環境 づくり	⑤	「感動」を生み 「知る喜び」を 感じる博物館	1	開館50周年記念展 の開催とテーマ性 のある展示創出	博物館	・特別展・企画展等を計画どおり実施した。 ・開館50周年記念展では、国宝をはじめとする貴重な 資料を借り受けて展示し、都とも密接なつながりを持つ 大御堂廃寺(久米寺)の価値を十分に伝えることができ た。 ・県立美術館との連携は、県美と市内の美術関連施設、 倉吉博物館の共同チケットをつくり、回遊ができる仕組 みづくりを行った。 【課題】 入館者につながっていない。児童・生徒の来館が少な く、学校教育課との連携が必要である。	A
			2	美術賞(管橋彦大 賞)の開催準備	博物館	・令和8年の「第11回管橋彦大賞」実施に向けて計画 どおり進めた。 ・欠員2名となった審査委員のうち1名については、現審 査委員の協議により推薦のあった方に就任を依頼し、快 諾を得た。残る1名は、令和7年度に依頼する予定。 【課題】 審査委員の高齢化。	B
			3	教育普及活動の充 実と調査研究活動の 推進	博物館	・博物館講座、自然ウォッチングともに当初計画どおり 進行した。 ・自然ウォッチングのうち彗星観望会は、最新情報を捉 えて特別編として取り上げた。 ・コロナ禍で影響を受けた観覧会や講座も少しずつ参 加者が戻ってきた。 ・倉吉市の国指定に向けた調査研究事業では、倉吉耕 保存会会員による調査協力の下、順調に進み、年度当 初の目標を上回る点数の資料を調査できた。 【課題】 特に大きな問題はない。	B
	⑥	豊かな心を育 む図書館	1	読書活動の推進	図書館	・ブックスタート事業は、個別に読み聞かせをし、絵本を プレゼントすることに合わせ、図書館で開催するおはなし の案内も行った。 ・定例開催のおはなしのほかに、各種団体の協力を 得て、けんせつ絵本、わらべうた、ストーリーテリングなど 工夫を凝らした様々な体験を行っていただく機会を提供 できた。 ・児童文学作家齋藤惇夫子育て講演会は、中部読書活 動推進フォーラム実行委員会との共催により開催し、選 書の重要さ、子どもと本をつなげる責任について考え させられる講演会となった。 ・新たな取組として、夜の図書館を開催した。フルートに 耳を傾ける方、読書をする方など秋の夜長を思い思い に時間を過ごしていただいた。 ・ふれあいホリデーにあわせて、3つのイベントを企画し、 なしっこ館と共催による誕プレイベントでは親子で触れ 合う姿が見られた。 ・県立美術館開館を前に司書の研修、美術関連本の収 集を行い、関連展示を行うことで機運醸成を図った。 【課題】 コロナ終息後における入館者数、貸出冊数の回復	B
						・開館50周年記念展の開催とテーマ性のある展示創出は、 当初計画どおりに進行し、特に開館50周年展は、県立美術 館に隣接する重要遺跡である大御堂廃寺跡の貴重さを展 示品や講演会等で伝えることができた。 ・美術賞の開催準備については、欠員の審査委員1名の依 頼が次年度に持ち越したものの、指名作家への出品依頼 等、順調に進行した。 ・教育普及活動の充実と調査研究活動の推進では、特に国 指定に向けた倉吉市の調査において、当初目標以上の点数 の耕資料の調査を進めることができた。また、調査で得た成 果を県立公文書館と共催で行った講演会で市民に伝えるこ とができ、耕模様と用途との関係が良く理解できたとの市民 の感想もいただいた。 閉ざされた関係者だけの調査に止まることなく、成果を市民 に還元できたことの意味は大きい。	B
						・読書活動を推進するため、ブックスタート、おはなしかい等 を継続するとともに、時機に応じた展示やイベントを各機関と 連携して行うなど、知的好奇心をくすぐる取組を継続してい く。 ・倉吉市視覚障がい者等の読書環境整備推進計画に基づ き、は～とふるコーナーの移設、デジ図書体験会などを 実施し、またサービスの内容を市報に掲載することにより サービスを必要とする人に情報が届くよう努力した。また、国 立国会図書館の視覚障がい者等用データ送信サービスの 承認館となり提供できるサービスの幅が広がった。音訳ボラ ンティアの協力により作成したデジ図書を全国の方に届 けるよう国立国会図書館データ提供館に登録した。引き続 き、関係機関と連携を図りながら計画を推進していく。 ・山上億良短歌募集は、昨年度に比べて応募数が減少し たが、応募作は佳作が多かったと筆頭選者の永田氏が評され た。永田氏による短歌講演会は、大変好評であった。また、作 品揮毫展(巡回展)の開催について、受賞者に案内したところ 県外からの来訪につなげることができた。 ・図書館が、多様性を持って市民の豊かな心を育み、そして 暮らしに役立つ情報の発信・提供により地域のハブとなれる よう、引き続き取り組んでいく。	B

項目	重点施策 (基本施策から)		主な施策		担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり	⑥	豊かな心を育む図書館	2	対象者のニーズに応じたサービスの提供	図書館	・各展示コーナーは、図書館実習やインターンシップで受け入れた学生にもポップや装飾など製作してもらうなど工夫しながら展示し、利用促進につなげた。 ・音読教室は、計画どおりに実施した。 ・各種相談会は、関係機関と調整しながら、計画どおりに実施した。 ・鳥取大学との共催事業は計画どおりに実施し図書館利用につなげた。 ・放送大学出前講座、農業セミナーは、共催団体と協力し計画どおりに実施した。 ・読書バリアフリー計画をもとには～とふるコーナーを入口に移設し、市報掲載など広報に努めた。 【課題】 読書バリアフリー計画をもとに必要な機器の整備等の取組を行う。	B	前頁のとおり	前頁のとおり
			3	山上憶良短歌募集事業の継続	図書館	・応募数は全国・海外から3,071首(うち市内小学生490首、市内中学生382首、合計872首)の応募があった。 ・2月には表彰式、そして選者の永田和宏氏による短歌講演会を開催することができた。 ・揮毫展は、巡回展として4箇所(5期間)で開催した。 【課題】 引き続き応募者数の増加、交流人口の増加を図るための取組を行う。	B		
2 創造性を培い、自立性・自主性を養う学校教育の推進	⑦	幼児期の教育と小学校教育の連携	1	幼児期の教育と小学校教育の連携	学校教育課	・架け橋期プログラムの意義と方向性について幼児教育研究会にて確認し、倉吉市架け橋期カリキュラム作成に着手。 ・スタート/アプローチカリキュラムは、各園、小学校で作成し取り組んでいる。 ・すこやか相談計16件あり、就学に向け保護者と話をすることができた。支援学級入級を検討されている保護者が多い。	B	B	・架け橋期カリキュラムについて、令和7年12月を完成として、校区ごとに作成中である。 【課題】倉吉市幼児教育の在り方、架け橋期カリキュラムの作成意義について、理解周知が全管理職へ浸透していないことに課題がある。 ・すこやか相談では保護者の不安を伺い、小学校入学に向けて取り組めることや情報提供等を行うことができた。
	⑧	学力向上の推進	1	教員の資質・能力向上のための取組	学校教育課	・学校計画訪問(10/4上灘小、10/11上北条小、10/22東中、10/31小鴨小、11/8河北中、11/19久米小)を実施。教育長および教育委員より、各校教職員への指導・助言を行う。指導主事から各校管理職及び研究主任への指導・助言を実施。 - 管理職対象「学校経営に係る研修会」実施(1/31)講師:名古屋市立八幡中学校高橋幸夫校長 ・授業づくりセミナーを計画し、周知を行ったが、参加者少数のため、取り止めとした。内容、実施方法等検討の余地がある。 ・学校にて授業研究会を3回実施。連絡協議会2回に参加。	B	B	・学校計画訪問、授業研究会での指導助言、各種研修会等を通じて、教員の資質能力向上を促進した。 【課題】教員のキャリアに応じた研修の企画立案をさらに進める必要がある。特にキャリアの浅い教員への研修を充実させていく必要がある。 ・学校計画訪問、授業研究会での指導助言等を通じて、授業改善を進めることができた。 (計画訪問実施校8校・授業研究会派遣9回・教材分析会2回) ・中部教育局と連携し、全中学校の数学訪問、英語訪問を実施し、授業改善につながるよう指導助言を行った。 ・全国学力・学習状況調査の結果 【小学校6年正答率(全国比)】 ・国語68(+0.3) ・算数61(-2.4) 【中学校3年正答率(全国比)】 ・国語54(-4.1) ・数学49(-3.5) ・学校行政アンケート・タブレットを使って「学習が分かりやすくなった」と回答した児童生徒の率 - 小:90.3%(R5:88.6%) - 中:82.6%(R5:82.9%) - 昨年度と比較し、全体で86.8%から87.9%に増加した。 【課題】研修内容、学力向上の推進に向けた取組内容の検討

令和6年度 倉吉市教育委員会の重点施策の実績と評価

項目	重点施策 (基本施策から)	主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
2 創造性を 培い、 自立性・ 自主性を 養う学校 教育の推 進	⑧	学力向上の推 進	2	学力向上の推進 学校教育課 とっとり学力学習状況調査について、県教育委員会、文部科学省と連携し、調査結果の分析活用について研究。 調査の活用推進と分析方法の提案、情報提供等、全小中学校訪問を実施。 各校の共通分析シートを作成し、各校の分析等に活用できるよう提供。 倉吉市プロジェクト校と活用の可能性について研究を進めている。	B	前頁 のとお り	前頁のとお り
			3	情報教育の推進 学校教育課 ・情報教育主任者会を実施し、アプリ等の活用について研修した。また、eラーニング教材についても意見をもらい、来年度の活用教材を決定した。 ・プレゼンテーションコンテスト実施。	B		
	⑨	特別支援教育 の充実	1	支援を必要とする児童生徒を支える学校体制づくり 学校教育課 ・就学支援委員会2回目10/31実施、30名審議。3回目11/29実施、31名。	B	B	・支援計画を支援会議や引き継ぎで活用することで1人1人にあった支援を検討することができた。 ・個別の支援計画、指導計画を活用した支援会議の実施状況 小:87.9% 中:78.7% 【課題】 教員の特別支援に関する支援等スキルの向上。
			2	小学校1年生対象の「読み」に対する早期支援 学校教育課 ・MIMを10月、12月、2月に実施し、個別の支援について検討し各学校へ周知した。	B		
3 安心・安全な 教育環境の 充実	⑩	組織的・機能的な学校運営	1	組織的・機能的な学校運営体制の確立 学校教育課 ・各小中学校が、児童生徒及び保護者アンケートや地域学校委員会等の評価を行い、学校運営の改善に努めるとともに、次年度への課題を明確にした。 ・各小中学校で教職員最終面談を実施し、今年度の取組の成果と課題を明確にし、次年度の目標設定につなげている。	B	B	・学校評価等により課題把握するとともに学校運営の改善につなげた。 ・各種調査、児童生徒及び保護者アンケート、地域学校委員会評価により、各校の課題の多面的な把握と改善を行い、組織的・機能的な学校運営を行うことができた。 【課題】 ・病休、休職教職員の増加、産育休取得教職員の増加と教職員のなり手不足により、学校運営が計画通り進まない現状がある。
			2	働き方改革の推進（ハラスメント防止・部活動の地域移行への協力） 学校教育課 ・ハラスメント相談はなかった。 ・冬季休業中に学校閉庁日を設けることで、2学期の振返りや3学期の準備ができず、3学期の時間外勤務時間増につながる可能性があるため、閉庁日を設けないこととした。 ・安全衛生推進協議会を開催し、教職員の勤務実態、市教委や各校の取組報告、親和性の高い職場作りのための協議を行った。 ・R6教職員の時間外勤務時間は前年度と比較し減少傾向にあるが、依然として時間外勤務が45時間超の教職員が多い状況は継続している。	C		

項目	重点施策 (基本施策から)		主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
3 安心・安全な教育環境の充実	⑩	組織的・機能的な学校運営	3 共同学校事務室の取り組み	学校教育課	学校徴収金システムについて、事業者が決定し共同学校事務室で導入の手続きを進めた。新年度から口座振替による徴収となる。	A	前頁のとおり	前頁のとおり
	⑪	安心して教育を受ける機会の推進	1 不登校未然防止のためのきめ細やかな指導と相談活動の実施	学校教育課	・9月から11月にかけて、市内全小中学校を訪問し、問題行動、不登校等の未然防止に向けた取組について意見交換等を実施。訪問内容をまとめ、再度各学校へ情報提供を行った。 ・SSWrによる各校訪問、支援会議における助言、関係機関等との連携を行った。	B	B	・不登校、問題行動の状況が喫緊の課題である。今後の改善に向け、未然防止の取組、不登校児童生徒への支援、まなびの場の確保、ひきこもり傾向の児童生徒への対策の4つを柱とし、取組を進めていく。 【不登校出現率(R6年度末)】 小学校:3.21% 中学校:10.58% 【令和5年度時不登校児童生徒の令和6年度における学校復帰率】小学校32% 中学校19% ・制服デザインを児童生徒主体に決定することができた。 ・LGBTQの講演会を実現でき、中学生や市民のLGBTQに関する理解を深めることができた。 ・援助を必要とする児童生徒の保護者に対し、延滞なく支給して保護者の負担軽減が図れた。 ・奨学金、遠距離通学費の支援を必要とする者に対し、延滞なく支給して負担軽減が図れた。 ・今後も適正な事務処理を行い、継続して制度の周知を徹底する。 ・市内全小中学校に防犯カメラ設置を完了した。
			2 倉吉モデル中学校統一制服導入に向けた取組	学校教育課	・第4回12/25、第5回2/26に実施。制服デザインを決定した。 ・デザイン案の展示を中学校5校とパープルタウン、倉吉市立図書館前にて行った。 ・児童生徒主体ということでアンケートについては児童生徒のみとした。	A		
			3 教育助成の充実(就学援助、特別支援教育就学奨励)	教育総務課	・学用品費、校外活動費、修学旅行費等の支給を延滞なく行った。 年度末には新1年生の児童・生徒の保護者に対し新入学児童生徒学用品費を支給し保護者の負担軽減を図った。 ・特別支援学級の児童生徒の保護者に対し支援を行い負担軽減を図った。 【課題】 ・次年度に向け、就学援助費と特別支援教育就学奨励費の両制度について丁寧に説明し、保護者への制度の周知を図る。	B		
			4 ・奨学金制度 ・通学費支援(児童生徒遠距離通学)	教育総務課	・奨学金の貸与について、延滞なく支払いできた。返還については、納期を過ぎて返還する者もあったが、納入を促し滞納はなかった。 ・児童生徒遠距離通学費助成は、学校と協力して計画どおり補助申請を受け、2校の変更申請があったが延滞なく交付決定し助成できた。 【課題】 ・引き続き適正な事務処理に努める。	B		
			5 ・防犯対策の強化 ・学校防災体制の強化	教育総務課	・当初予定していた工事は概ね計画通り執行し、防犯対策の強化を図った。 【課題】 ・本工事で全ての小中学校に防犯カメラが設置されたが、安心して教育が受けられるよう、今後も訓練の充実を図り、安全対策に努める。	B		

令和6年度 倉吉市教育委員会の重点施策の実績と評価

項目	重点施策 (基本施策から)		主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
3 安心・安全な教育環境の充実	⑫	教育環境の整備充実	I 学校施設の適正な維持管理	教育総務課	・予定どおり完了し教育環境の充実を図った。 ・予定どおり完了し省エネルギー化及び適切な照度の保持による教育環境の整備を行った。 【課題】 ・常に学校、施工業者、監督員と施行状況や課題を共有し、進捗管理を行う。 ・モデル校を選定し市営温水プール、他校のプールを利用した水泳学習を試行した。 ・モデル校にアンケートを実施した。	B	B	・学校と協議し、学校の希望を反映した工事を執行した。 ・R6年度の試行に加え、R7年度は新たに民間プールの利用や温水プールを利用した夏季以外の水泳学習を試行して検証を重ね、市内全小中学校の水泳学習の在り方の方針を決定する。
	⑬	学校の適正配置の推進	I 今後の適正配置のあり方について方向性を検討	学校教育課	・倉吉市学校教育審議会への諮問に至らなかった。 ・3月の定例教育委員会で適正配置の今後の進め方について協議。	C	C	・まずは令和6年4月に開校した小鴨小学校と久米小学校が円滑に運営できるよう注力したところだが、今後の適正配置のあり方について、議論を進めることができなかった。
	⑭		I 施設の長寿命化	博物館	・高架水槽取替工事については、計画どおり設計が完了した。現地施工については、材料変更で部材の納期が延びたこと、水槽を支える架台の打ち直しによる増工等により工期が延長となったものの、予定どおり完了した。 ・消火設備の二酸化炭素閉止弁設置は予定どおり現場施行が完了した。 【課題】 施設改修は年次的に進めてきた。電気設備の取替え等、老朽化に伴う改修も急がれる。また、バリアフリーの改修も計画していきたい。	B		・博物館の施設長寿命化については、高架水槽の取替工事が増工等で工期が伸びたが、年度内に完了した。 【文化教養施設】 ・「倉吉市教育施設等長寿命化計画」及び「倉吉市公共施設等脱炭素化推進計画」に基づいて、老朽化する施設の改修等を計画通りに進めることができ、訪れる市民や利用者が快適に、また安心安全に各施設を利用していただける環境を整備していくことができている。
3 安心・安全な教育環境の充実	⑭	文化教養施設・体育施設の整備充実	2 体育施設の整備・充実(陸上競技場・温水プール改修等)	社会教育課	・前年度繰越工事の市営温水プールヒートポンプ取替を閑散期であるR7の1月に実施予定としていたところ、5月に取替予定のヒートポンプが故障し、館内の冷房が使用できなくなったため、早急に取替工事を実施する必要があったが、6～7月の学校水泳授業、夏休み期間の繁忙期に対応するため、スポットクーラーやサーキュレーターを緊急配備し、指定管理者に協力をいただき、安全に開館を継続させ、市民の利便性を図った。盆移行に工事を前倒して実施し、他の工事を平行して実施することで休館期間を最小限にすることができた。 ・すべての工事において、年度内完成し検査を完了した。 【課題】 計画的な改修を行うにあたり、指定管理者と連携した施設の老朽化に伴う修繕箇所等の早期発見に努める必要がある。	A	B	
			3 倉吉パークスクエア・倉吉交流プラザの長寿命化・脱炭素化	図書館	予定どおり工事が完了し、施設の長寿命化、脱炭素化を図ることができた。 【課題】 引き続き、長寿命化計画・脱炭素化計画に基づき、施設の整備を行う必要がある。	B		
								【体育施設】計画していた工事及び修繕業務を予定通り完了し、利用者が安全・安心してスポーツ活動ができるよう体育施設等の整備充実を図ることができた。また、施設周辺の倒木等のおそれがある危険な木を点検し、伐採するなどの処理対応することができた。

項目	重点施策 (基本施策から)		主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
4 たくましく健やかな心と体づくりの推進	⑮	人権尊重社会の担い手づくり	1 「学校教育における人権教育の方針」に基づく人権教育の推進	学校教育課	・生命の安全教育研修会を実施。 ・今後の倉吉市学校教育における人権教育に関する検討を進め、令和7年度の提案に向けた準備を進めた。 ・主任者会では、要望に合わせた内容を取り扱ったり、1年間の取組について情報交換等を行い、次年度への展望を共有した。	A		
			2 学校満足度アンケートの活用、相談体制の充実	学校教育課	・市内小中学校の小学校3年生から中学校3年生がhyper-QUを実施し、各校にて結果を分析、その後の指導等に活かした。	B	B	・生命の安全教育を昨年度に続き実施し、各学校教職員への周知啓発に努めた。 ・今後の倉吉市学校教育における人権教育の推進にあたり、人権教育関連教材一覧を作成し、令和7年度の各学校への提案準備を整えた。 【全国学力学習状況調査】 ・「自分にはよいところがあると思う」と回答 小学校:86.1% 中学校:86.0% ・「学校に行くのは楽しい」と回答 小学校:84.0% 中学校:79.3% ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答 小学校:97.7% 中学校:94.2% ・いじめ認知件数(R6.12月末) 小学校:38件 中学校:71件 ・授業時間以外でタブレットを勉強のために活用している(遊び以外)児童生徒の率(1日30分以上) 小:47.8%(R5:39.5%) 中:43.5%(R5:30.2%) 【課題】 情報モラル教育から進んだ取組が必要。
			3 いじめを許さない学校体制づくり	学校教育課	・生徒支援委員会にSSWrが参加。 ・市内全小中学校への生徒指導訪問を実施。 ・倉吉市青少年問題対策協議会を2回実施し、不登校、問題行動等対策について協議。	B		
			4 情報モラル教育の推進	学校教育課	・タブレット端末を活用した生徒指導的なトラブル等はなかった。	B		
	⑯	たくましい体の育成	1 健やかな心と体の育成	学校教育課	・体力テストの結果を踏まえ、各校が重点目標を設定し、体育の授業、業間運動等で体づくりに取り組んだ。 今年度の結果を踏まえ、来年度の取り組みを検討し、報告書が提出される予定。 ・薬物乱用防止教室、性に関する教育の実施。	B		
			2 中学校部活動地域連携・地域移行	社会教育課	中学校部活動地域連携・地域移行に向けて推進会議を設立し、第1回会議を開催し、関係機関の意見を聴取した。 【課題】 児童・生徒の現状を把握し、本市の実情に応じた教育委員会としての方針を決定する必要がある。	B	B	・新体力テストの結果で「おおむね良し」と判定された児童・生徒の割合 小:72.6% 中:69.4% *成果指標 A:80%以上 B:50%以上 C:50%以下 今後も各学校で運動時間の確保、体力テスト結果を踏まえた内容検討を行う。
			3 子どもの年齢に応じた体力づくりの推進	社会教育課	・体育施設、温水プール指定管理者による各教室は計画通り実施した。 ・新たな取組として、指定管理者とスポーツ推進委員が連携し、ユニバーサルスポーツ祭を開催した。 【課題】 各教室の参加状況を把握し、内容等を検討する必要がある。	B		・計画通り、各教室や交流大会を行うことができた。 ・新たな取組として、体幹教室の実施により、柔軟性の向上を図ることができた。また、誰でも参加できるユニバーサルスポーツ祭を開催し、多くの人とつながり、共に楽しむことができた。

令和6年度 倉吉市教育委員会の重点施策の実績と評価

項目	重点施策 (基本施策から)	主な施策	担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
4 たくましく健やかな心と 体づくりの推進	⑦	学校給食の充実、食育の推進	1 栄養教諭などによる学校での食に関する指導	・食に関する指導計画表に基づき、給食主任や学級担任と連携し、栄養教諭と学校栄養職員が小中学校全学級を対象に食に関する指導を行った。 ・学校保健委員会の機会に、その学校の現状を伝える資料を提供し、各家庭にも情報提供される働きかけを行った。 ・学校給食週間行事は予定どおり実施。広く取り組みを紹介することができた。 【課題】 取り組みは計画どおりに実施できている。	A	A	・令和6年度の残食率は、全体平均では前年度と比較して大きな変化は見られなかった。これは、学校による差が大きいことが要因になっている。個別で比較すると、前年度より残食率の下がった学校が複数あった。 ・令和6年度新たにブックメニュー給食を実施。通常給食に付加価値をつけるイベント給食を実施することで、児童生徒が食に興味を持つための働きかけを行った。鳥取県下の栄養教諭の取り組みについて発表する場で、市立図書館や学校図書館、市全体で食育に取り組む体制が評価された。 ・親子で学ぶ食の教室は2学期開催が定着。対象の小学校1年生の児童が落ち着いており、施設見学に留まらず食指導の場となっている。
			2 親子で学ぶ食の教室の実施	・全小学校の1年生児童とその保護者を対象に、学級ごとに開催した。コロナ禍で実施できていなかった学年でも1校開催できた。保護者アンケートの結果は概ね好評であった。 【課題】 なし。取り組みを継続する。	A		
	⑧	体育・スポーツの振興	1 スポーツ活動支援	・市民スポーツ大会は、卓球・ソフトバレーが他大会との日程調整や参加者の減により実施できなかったが、その他の16競技を開催した。 ・スポーツ表彰を計画どおり実施した。団体表彰は昨年より6団体増え(R6:33団体 個人79人)、表彰式の受賞者参加数も117人(R5:108人)と昨年を上回った。 【課題】 ・スポーツ大会は、参加実施方法や周知にかかる工夫が必要である。 ・表彰式は、運営スタッフの減少、準備時間短縮など全体を通して改善点が多かった。	B	B	計画通り、各種スポーツ活動機会の充実・スポーツ団体の育成、研修会を行い、各団体と連携し、スポーツの振興を図ることができた。
			2 生涯スポーツの推進	・計画通り実技研修、講習会を実施し、委員の資質向上を図った。 ・各地区教室は、楽しんで取組んだ。 【課題】 ・幅広い年齢層が参加しやすい環境の整備が必要である。	B		
5 文化資源の保存活用と文化・芸術の振興	⑨	倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成	1 小中学生リーダー会議	・リーダー会議報告会を1/30に実施。 ・県立美術館開館に向け菜の花を各学校で育て、開館前には大御堂庵寺跡周辺に移動。	A	A	・目的を具体的に示したことで児童生徒も意識して取り組めた。 【課題】 5月から1月の間の取組状況の把握等。
			2 地域の人・もの・こととがらに触れる教育活動の推進	・児童生徒は、大変興味深く鑑賞していた。芸術にふれるいい機会となっている。 ・関係課等と連携を図りながら、ふれあいホリデーを予定どおり試行。 ・実施後アンケートについて実施、分析を行った。	A		

項目	重点施策 (基本施策から)		主な施策		担当課	実績	実績 評価	施策 評価	最終 評価
5 文化資源の 保存活用と文化・ 芸術の振興	②	文化財の保存、 活用、伝承	1	指定文化財等の防 災・防犯等適切な保 護管理	博物館	・消防計画に基づいた指定文化財の救出訓練を計画ど おり実施した。 ・消防法改正による二酸化炭素閉止弁の取り付けを予 定どおり実施。 ・国保有指定文化財の無償借受申請の手続きが簡略さ れたが、文化庁には借用の手続きを適切に行った。 【課題】 特になし。	B		
			2	指定文化財等の展 示・文化財を核とす る講座の開設	博物館	・国保有並びに博物館所蔵の指定文化財の展示を計 画どおり実施した。 ・開館50周年記念展において、国宝1件、重要文化財3 件、県指定4件を展示公開し、普段市民があまり目に触 れることの少ない貴重な文化財(寺院跡出土品等)を 展示公開した。 ・上記記念展開催に伴い、県外の専門講師による講演 会を実施し、企画展の内容をより理解する機会をつくり 出した。また、企画展の核となった大御堂廃寺(久米寺) がいかに中央の有力者となっていたかを市民が理解 できた講座であった。 【課題】 特になし。	A	B	・博物館の文化財の保存と活用については、博物館の消防 計画に基づいて、適切に実施できた。また、消防法の改正に も、迅速に対応した。 ・指定文化財等の展示と講座の開設については、博物館50 周年記念展という節目の展覧会であったこともあり、3年が かりで国宝等の指定文化財の借用と公開を行うことができ た。第一級の希少な文化財に接する機会をつくり出すことが できた。講座講師もその道の第一線の研究者を招聘し、倉吉 において研究最前線の講演を聴講する機会となった。 ・外部講師を招き、「くらし風土記」を活用したふるさと学 習を実施。(4/5中学校) ・リーダー会議では、タブレットを活用し、次年度に繋がるよう な実施方法の工夫ができた。 ・くらし風土記の活用、地域との連携、校外の施設見学等、 各校が工夫を凝らしたふるさと学習を実施した。(全小中 学校実施) 小中学校行政評価結果「くらしが好き」と答えた割合 ・倉吉市89.0% (R5:85.8%) ・小学校92.9%(R5:90.9%) ・中学校80.2%(R5:75.0%) ・令和6年4月から文化財課が教育委員会から市長部局へ 移管となったが、教育委員会として文化財の保存、活用、伝 承に関わる部分については、学校教育や社会教育事業の中 で引き続き文化財課とも連携を図りながら取組を進めること ができた。 ・文化財の保存については、実際に文化財を保存・管理して いる博物館において、消防法の改正にも対応した設備改修 を行い適正な保存・管理に努めている。 ・文化財の活用については、博物館50周年記念展において 国宝等他館から借用してきた指定文化財と合わせて本市の 文化財も陳列したことで、より大御堂廃寺や伯耆国分寺跡 の歴史的価値を市民や来館者に伝えることができたほか、 講演会等で招聘した講師もその道の第一線の研究者を揃 え、倉吉において研究最前線の講演を聴講する機会を提供 することができた。
			3	学校教育・社会教 育との連携	学校教育課 社会教育課	【学校教育教育】 ・倉吉学検定を中学1年生対象に実施。 【社会教育】 ・夏休み子ども体験教室「オリジナルの鬼瓦を作ろう!」 では、文化財課及び博物館と連携し、大御堂廃寺跡か ら出土した鬼瓦について小学生12名が学んだ。制作し た作品は、博物館の特別展の会期中に展示し、来館者 に観ていただくことができた。 ・地区コミュニティセンターにおいて、文化財や歴史文化 を学ぶ各種事業が実施された。 【課題】 今後も文化財について学ぶ機会を文化財課、博物館等 と連携をとりながら創出していくことが必要である。	B		

5 教育委員会の主な動向

(1) 教育長・教育委員の在任状況

(R7.3.31現在)

職 名	氏 名	年 齢	就任年月日	任 期	保護者
教育長	中田 寛	61	R 6.10. 3	R 9.10. 2	
教育長職務代理者	田 民 義 和	67	R 6.10. 5	R 10.10. 4	
委 員	高 橋 義 博	62	R 4. 1. 1	R 7.12.31	
委 員	伊 木 香 代	60	R 5. 7. 4	R 8.10. 7	
委 員	徳 丸 桃 子	38	R 5.10. 5	R 9.10. 4	○

①委員の異動(市長が任命)

令和6年4月2日付で中田寛教育長が就任された。

令和6年10月3日付で中田寛教育長が再任された。

令和6年10月5日付で田民義和教育長職務代理者が再任された。

(2) 教育委員会の会議

(R6.4.1~R7.3.31)

会議名	回数	備 考
教育委員会	16	議案19件、協議事項19件、報告事項172件

(3) 教育委員会の開催状況

4月23日第6回定例会

協議事項(3件)

適正配置について

令和5年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価(案)について

令和6年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画(案)について

報告事項(18件)

教育長報告ほか17件

5月7日第7回臨時会

議 案(1件)

議案第19号 鳥取県中部地区教科用図書採択協議会の採択協議会委員の選出について

5月28日第8回定例会

協議事項(2件)

令和5年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価(案)について

令和6年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画(案)について

報告事項(12件)

教育長報告ほか11件

6月5日第9回臨時会

議 案(2件)

議案第20号 令和5年度倉吉市教育行政の点検及び評価について

議案第21号 令和6年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について

6月26日第10回定例会

協議事項(1件) 倉吉モデル中学校統一制服導入に係るマスターメーカーの承認について
報告事項(13件) 教育長報告ほか12件

7月9日第11回臨時会

協議事項(1件) 倉吉モデル中学校統一制服について

7月24日第12回定例会

議案(1件) 議案第22号 市立小学校教職員の処分について
報告事項(11件) 教育長報告ほか10件

8月21日第13回定例会

議案(1件) 議案第23号 令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について
報告事項(13件) 教育長報告ほか12件

9月25日第14回定例会

議案(1件) 議案第24号 市立小・中学校教職員の処分について
協議事項(2件) 倉吉市教育振興基本計画第3期(令和3年~令和7年)成果指標実績について
令和7年度当初予算要求に向けて
報告事項(17件) 教育長報告ほか16件

10月24日第15回定例会

協議事項(2件) 令和6年度教育委員会重点施策に基づく実施計画の進捗状況について
令和7年度当初予算要求について
報告事項(10件) 教育長報告ほか9件

11月26日第16回定例会

議案(3件) 議案第25号 令和6年度教育費補正予算について
議案第26号 財産の取得に係る意見の申し出について(中学校教師用指導書等)
議案第27号 市立小学校教職員の処分について
協議事項(3件) 令和7年度体験的学習活動等休業日(ふれあいホリデー(仮称))について
令和6年度末倉吉市学校教職員人事異動方針について
第4期倉吉市教育振興基本計画策定方針について
報告事項(19件) 教育長報告ほか18件

12月26日第17回定例会

協議事項(1件) 令和6年度倉吉市教育委員会表彰について
報告事項(18件) 教育長報告ほか17件

1月28日第1回定例会

- 議 案(2件) 議案第1号 令和7年度倉吉市の教育方針と重点施策について
議案第2号 教育長に対する事務委任及び教育長の専決に関する規則の一部改正について
- 報告事項(14件) 教育長報告ほか13件

2月26日第2回定例会

- 議 案(2件) 議案第3号 令和7年度教育施設整備に係る工事計画の策定について
議案第4号 令和7年度倉吉市の教育方針と重点施策について
- 協議事項(2件) 倉吉モデル中学校統一制服デザインの決定について
第4期倉吉市教育振興基本計画の「教育理念」等検討の方向性について
- 報告事項(12件) 令和6年度倉吉市教育委員会表彰被表彰者の追加決定について
教育長報告ほか10件

3月12日第3回臨時会

- 議 案(2件) 議案第5号 令和6年度末倉吉市学校教職員人事異動について
議案第6号 倉吉市教育委員会事務局等組織規則及び倉吉パークスクエア広場の管理に関する規則の一部改正について

3月26日第4回定例会

- 議 案(4件) 議案第7号 令和7年度倉吉市教育委員会主要事業について
議案第8号 令和7年度倉吉市学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について
議案第9号 倉吉市地域学校委員の任命について
議案第10号 教職員の処分について
- 協議事項(2件) 第4期倉吉市教育振興基本計画の「教育理念」及び「教育目標(基本方針)」について
小中学校適正配置の今後の進め方について
- 報告事項(15件) 教育長報告ほか14件

(4) 総合教育会議の開催状況

6月26日第1回倉吉市総合教育会議

- 報告事項(2件) 令和5年度倉吉市教育行政の点検及び評価について
令和6年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について
- 協議事項(2件) 幼保小接続について
・最新の国の動向
・「架け橋プログラム」について
・鳥取県の状況について
指導助言 鳥取県教育委員会事務局小中学校課
幼児教育担当 坂根 千恵 係長
中学生の地元定着に向けた取り組みについて

12月26日第2回倉吉市総合教育会議

協議事項(3件) 教職員の勤務実態と部活動の現状について
 地域学校委員会の現状と今後の方向性について
 倉吉の教育の未来像について

(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加

① 学校計画訪問

R6.7.9	明倫小学校
R6.7.17	関金小学校
R6.10.4	上灘小学校
R6.10.11	上北条小学校

R6.10.22	東中学校
R6.10.31	小鴨小学校
R6.11.8	河北中学校
R6.11.19	久米小学校

② 諸行事への出席

R6.4.2	宣誓式
R6.4.11	倉吉市立小学校入学式
R6.4.11	倉吉市立中学校入学式
R6.5.13	第1回倉吉市小中学生リーダー会議
R6.5.29	東伯地区・倉吉市教育委員会合同研修会
R6.6.9	第69回倉吉市美術展覧会開会式
R6.6.23	第69回倉吉市美術展覧会表彰式
R6.6.26	令和6年度第1回倉吉市総合教育会議
R6.7.10	令和5年度鳥取県市町村教育委員会研究協議会第2回理事会
R6.7.10	令和6年度鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会・研究大会
R6.9.1	倉吉博物館開館50周年記念特別展「大御堂廃寺展」開会式
R6.9.14	中学校運動会(河北中・東中・西中・久米中・鴨川中)
R6.12.26	令和6年度第2回倉吉市総合教育会議
R7.1.3	令和7年倉吉市はたちのつどい
R7.1.24～30	倉吉市学校給食週間優秀賞表彰式・会食(該当校のみ)
R7.1.30	第2回倉吉市小中学生リーダー会議
R7.2.1	令和6年度市町村教育委員会委員・教育長等研修会
R7.2.4	令和6年度打吹公園だんご教育奨励賞・倉吉市教育委員会表彰表彰式
R7.2.15	倉吉市スポーツ協会スポーツ表彰表彰式
R7.2.15	第69回倉吉文芸表彰式
R7.2.24	第13回山上憶良短歌賞表彰式
R7.3.11	中学校卒業式
R7.3.14	小学校卒業式
R7.3.15	倉吉市創作文華展表彰式